



すでに起こった未来、Next Society (4月のごあいさつ)

平成 27 年 4 月 1 日 (水)

散る桜、残る桜も散る桜という句を聴いてなるほどと思いました。

変革期である。転換期である。経済、社会の環境変化が急激に、指数関数のグラフの変曲点(point of inflection)のように急カーブを切るような感じがする。人口構造や社会環境がある確かさをもって予測できる時、旧来の方法ではうまくいく筈はない。

急激な変化と乱気流、たんなる対応のうまさでは成功は望み得ない。大きな流れを知り、基本に従わなければならない。

知識は瞬時に伝えられ、万人の手に渡る。「情報を握る者が実権を握る」とは古来からの名言である。ここ 100 年間の経済や社会の歴史を見ると、先ず製造業が製品やサービスのあらゆる情報を握っていた。しかし、その情報はすでに流通業へ移転している。そして今、情報は顧客へ移転し続けている。

江戸幕府は徳川家とその財産を守る制度として、265 年間有効に働いたが、その倒壊のときには、日本は世界から 100 年間の遅れを露呈した。

顧客を情報という観点から定義し直す必要をインターネットは提起しているのではないか。距離の概念がなくなり、一国の人口構成や社会構造を基礎にしたマーケットの定義もできないのではないか。

アマゾン等の拡大と存在感を見ると、インターネットは、

- (1) 流通チャンネルの一つなのか、いや、マーケットの一つのようだ。
- (2) ビジネスに付随した機能なのか、いや、独立したビジネスの一つのようだ。
- (3) 現在の経営の考え方は根底から変える必要があるようだ。

マーケットの概念が変化すれば、レストランも、病院も、大企業も、中小企業も…ビジネスを定義し直す必要がある。(ドラッカーの Next Society などを読んで)

財政再建中の夕張市の解消すべき赤字は▲322 億円で、平成 20 年度の標準財政規模 (46 億円) の約 7 倍となっている。そして赤字解消までの計画期間は、平成 22 年度から平成 38 年度までの 17 年間という。すなわち、赤字を解消すべき年間利益 (19 億円) の 17 倍の赤字があるということになる。

国の債務残高は、1,000 兆円を突破したと言われており、平成 25 年度末の国の貸借対照表の債務超過額は▲490 兆円となっている。夕張市と同じように考えれば、年間の歳入に対し歳入超過額は 29 兆円必要となる。ところが、27 年度予算では、国債関係を除いた歳出超過額が▲13.4 兆円である。

このうえ、過剰雇用に陥っている成熟産業や旧制度に、補助金などの名目で資金を注ぎ込む政策は害をなすだけである。それらの資金は、解雇された高齢者を助け、若年者を再教育し、再雇用するために使わなければならない。社会保障の給付は、抑制と効率化を考え、社会の再生産に資する方面に手厚くシフトする必要がある。